

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 149

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+2	+5	+8	令和8年度の目標	0	0	0	0	+11	+15	+6	+6
令和7年度の結果	0	+3	+3	令和7年度の結果	-8.9	-9.2	+8.4	+12.5	+4.1	+4.6	-1.5	+2.7
令和6年度の結果	-7	-3	-10	令和6年度の結果	-0.1	0.7	1.5	4.8	-3.3	0.1	-6.3	-6.4
令和5年度の結果	-13	-9	-22	令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題			令和8年度 目標				令和8年度 目標達成に向けた取組			
内容											
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現4年生から現6年生は、「よむYOMUワークシート」や「算数学習カルテ」を継続的に行っていたことにより、基礎力の定着が見られ校内の正答率が「国語も算数も(6年生国語以外)東京都の平均を上回ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現3年生は、国語・算数共に東京都平均を下回っているため基礎力の定着が最大の課題である。また、領域別では、各学年共通して国語の「書くこと」の平均正答率が全国に比べて下回っていることである。 			<p>○現3年生は、来年度から「よむYOMUワークシート」や「算数学習カルテ」を着実にを行うことにより基礎力を定着させ、国語と算数の平均正答率を東京都水準に押し上げるようにする。</p> <p>○「よむYOMUワークシート」を元にした「感想ノート」を継続的に行い日頃より書く習慣を身に付けさせ各学年の「書くこと」の領域の平均正答率を全国平均水準に押し上げるようにする。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○校内で算数科のノートの書き方を統一し、指導の統一を図る。 ○江戸川区算数科スタンダードに基づく授業を確実に行う。 ○東京ベーシックドリル活用期間を各学期で実施する。1・2学期は前学年の復習、3学期は当該学年の復習をする。 			
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計算チャレンジとして、1位数の足し算・ひき算、繰り上がりのある計算、繰り下がりのある計算の指導を行い、約半数の児童が合格をした。 ○家庭学習を定着させるため、課題をほぼ毎日出すことで、ほぼ全員が宿題に取り組むことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の気持ちや意見を伝えられない児童が2割程度いた。 ○時計が正しく読めない児童が1割程度いた。 			<p>○国語科では、ひらがな、カタカナ、1学年配当の漢字の確実な習得をする。また、全員がスムーズに音読ができるようにする。</p> <p>○算数科では、1位数のたし算ひき算の確実な定着を目指す。</p> <p>○学習規律の徹底を図る。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○計算チャレンジに取り組み、足し算ひき算の習熟を図る。 ○算数ノートの書き方を統一する。 ○宿題を出すことで、家庭学習の定着をはかり、ひらがなやカタカナを正しく書けるようにしていく。 ○必要に応じて、ミライシードのドリルパークやまるぐランドを活用し、学習の定着を図る。 			
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の学習では、新出漢字の学習終了後、毎日漢字を使った文章で復習を行い、学期末テストでは88点以上が8割を超えた。 ○九九テスト(順・逆・バラバラ・立式・問題作りテスト)を5人の教員で指導を行い、9割の児童が合格をした。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章から主語・述語を書く問題で、主語・述語が選べない児童が4割程度いた。 ○算数科の長さや水のかさなどの単位変換や、適切な長さや水のかさの単位を選ぶ問題では、見当や日常生活からのイメージから解答に結びつかなかった。 			<p>○国語科では、主語・述語を使い、自分が表現したい場面に必要な助詞を選択して文に表すことを通して、文の中における主語と述語の照応関係や助詞の正しい使い方について理解させる。</p> <p>○算数科の九九では、全児童が九九テストを合格できるようにする。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習やフレキシブルタイムでプリント学習やミライシードなどで定期的に復習を行う。また、主語・述語を取り入れた文章を書くようにしていく。文章の要点は主語・述語にあり、その関係性を的確に捉えるようにしていく。 ○かけ算の式の意味(1つ分の数×いくつ分の数=全部の数)を説明できるようにし、かけ算の立式や九九定着に繋げる。 ○九九テスト合格に向け、学級で歌を流したり、かけ算を使うと良い場面を強調したりして、普段の生活に取り入れていく。 			
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の学習では、「漢字カード」を用いて読み上げる学習と、ドリル・練習冊に書く学習を組み合わせ、繰り返し学習した。 ○朝学習・フレキシブルタイム、練習冊を活用し、算数科の学習の定着を図った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○江戸川区定着度調査の結果から、算数科では、0層の児童が4割を超えている。特に測定領域の得点率が低かった。 			<p>○国語科では、区学力調査において、平均正答率が江戸川区、全国の数値と等しくなることを目指す。主に文学的文章の読解力を付けること、言葉の特徴や使い方を身に付けることができるようにする。</p> <p>○算数科では、たし算ひき算の筆算、かけ算の筆算、わり算の確実な定着を目指す。測定領域の理解を深める。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章の読解力を付けるため、説明文の学習において、文章をよく読み考える学習、読み取ったことをもとに自分の考えを書き表す学習を繰り返し行う。 ○言葉の特徴や使い方を身に付けることができるよう、物語文、説明文単元の終わりに自分の考えを書き表し、言語単元で身に付けたことを活用できる機会を確実に設ける。 ○マス計算に取り組む。 ○特に「測定」の分野において、実際の量をイメージした上で数的処理ができるよう、具体物の観察や操作の場面を多く設定する。 			
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数科では、朝学習やフレキシブルタイムに学習カルテに取り組み、基礎基本の定着を図った。江戸川区定着度調査の結果では全国平均より10ポイント以上上回り、基礎問題では8割、応用問題7割5分の正答率であった。 ○日頃の学習では、Which、Who型など選択式の課題設定をしたことで、考えをもちに児童も自分の考えをもてるようになった。また、意見がずれぬような発問、課題設定にすることで話し合いを活性化することで、自身の考えをある、あるいは深める児童も多くなった。他にも話し合い活動の中で、それぞれの考えを共有した後、それぞれの考えを尊重することを徹底することで、対話の中で、自分の主張の強みに基づく意見も多く見られるようになり指導してきた。その結果、江戸川区定着度調査では国語科の全国平均に比べて7ポイント以上上回り、基礎問題では8割4分の正答率だった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年平均でも低いが、国語科の書くこと、読むことの正答率が6割を切っている。 			<p>○算数科では、基礎基本の確実な定着を目指す。授業では自力解決の時間を確保し、友達との考えと比較できるようにする。</p> <p>○国語科において、文章を根拠をもって読み取り、自分の考えを整理して書く力を高める。特に「読むこと」「書くこと」の力の向上を図り、基礎的な問題だけでなく思考を伴う問題にも対応できる力を育成する。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○学習カルテを活用し、正答率の低い単元の問題に繰り返し取り組めるようにする。 ○習熟度の指導内容を見直し、発展コースでは文章だけでなく、図や数直線など様々な方法で説明する力をつける。 ○Which型やWho型などの選択式課題を活用し、全ての児童が自分の考えをもてるようにするとともに、考えの違いをもとにした話し合い活動を通して、考えを深める学習を継続する。 ○朝学習やフレキシブルタイムを活用し、よむYOMUの要約や記述問題などに取り組むことで、「読むこと」「書くこと」の基礎的な力の定着を図る。 			
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科では、よむYOMUの取り組みもあり、問題に対して自分の考えを、結論・根拠・まとめという形式の文章が書けるようになっていく。 ○算数科では、朝学習やフレキシブルタイムに学習カルテに取り組み、基礎基本の定着を図った。江戸川区定着度調査の結果では全国平均より4ポイント以上上回り、特に知識技能の正答率は8割を超えられたことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科では、江戸川区学力調査の結果から、説明的文章と記述式の問題に課題があった。よむYOMUには取り組んできたものの、条件と合わせて文章を書くことに課題が残る。 			<p>○国語科では、接続詞や指示語を意識して文章を読み取れるように、日頃の授業から意識して文章を読み取るようにする。また、漢字の書き取りも、朝学習等を利用して、基礎基本の定着を図る。</p> <p>○算数科では、基礎基本の確実な定着を目指す。さらに応用問題にも取り組み、既習を生かす機会を増やす。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○日頃の授業から、接続詞や「これ」といった指示語を意識しながら、学習を進め確実に定着を図る。 ○よむYOMUを利用して、自分の考えを3文でまとめる。また、条件などもつけて文章が書けるようにする。 ○学習カルテを活用し、正答率の低い単元の問題に繰り返し取り組めるようにする。 ○習熟度の指導内容を見直し、発展コースでは多くの発展問題に取り組む。 			
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科では、よむYOMUの取り組みもあり、問題に対して自分の考えを、結論・根拠・まとめという形式の文章が書けるようになっていく。 ○江戸川区定着度調査の結果から算数科では、テマの活用で正答率8割を超えている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科では、江戸川区学力調査の結果から、説明的文章と記述式の問題に課題があった。よむYOMUには取り組んできたものの、記述の解答に抵抗がある。 			<p>○国語科では、自分の考えを書くことができるように日頃から、結論・根拠・まとめの構成で文章が書けるようにする。また、読解力を付けるために、問題文と本文を照らし合わせて読むなどの技能を身に付けさせる。</p> <p>○算数科では、基礎基本の確実な定着を目指す。授業では、多様な方法で説明できる力を育む。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○答えだけでなく、根拠や意味にもこだわり、友達と対話する時間を設ける。 ○朝学習やフレキシブルタイムを活用し、計算力を高めさせる。 ○習熟度の応じて、発展問題に取り組む。 ○既習事項の定着化を図るために、東京ベーシックドリルなどを活用する。 			